

◆医師の異動（10月）

■着任（H30.10.1付）

消化器内科責任部長 今枝 広丞（いまえだ ひろつぐ）
 歯科・歯科口腔外科責任部長 近藤 定彦（こんどう さだひこ）
 外科部長 池野 嘉信
 外科部長 奥村 晋也（おくむら しんや）

■退職（H30.9.30付）

外科部長 池野 嘉信
 麻酔科医長 和田 佳子

◆地域医療従事者研修会のご案内

■第299回 開放型病床生涯教育研修会

日時：平成30年10月4日（木）17：30～19：00
 会場：市立長浜病院 講堂
 テーマ：在宅酸素療法
 ～スムーズな導入・継続のために～
 講師：市立長浜病院
 呼吸器内科責任部長 野口 哲男
 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 山口 清香
 問合せ先：地域医療連携室 電話 0749-68-2300（代表）

■第5回感染管理専門コース研修

日時：平成30年10月17日（水）17：45～19：00
 会場：市立長浜病院 講堂
 テーマ：人工呼吸器関連肺炎
 手術部位感染
 講師：市立長浜病院 感染管理認定看護師
 問合せ先：看護局教育支援室 電話 0749-68-2300（代表）

■びわ湖あさがおネット利用操作説明会

日時：平成30年11月1日（木）18：00～19：30
 会場：市立長浜病院 講堂
 内容：びわ湖あさがおネットの利用・操作方法
 講師：長浜赤十字病院 院長 楠井 隆 先生
 問合せ先：地域医療連携室 電話 0749-68-2300（代表）

■開放型病床生涯教育研修会 300回記念講演

日時：平成30年11月10日（土）16：30～17：45
 会場：北ビワコホテルグラツィエ（長浜市港町4-17）
 テーマ：「腸内細菌と健康の関わり」
 講師：滋賀医科大学医学部 消化器内科
 教授 安藤 朗 先生
 参加費：無料 定員：120名
 問合せ先：地域医療連携室 電話 0749-68-2300（代表）

■滋賀県緩和ケア研修会（集合研修）

緩和研修会は、厚生労働省の開催指針に沿って開催しますので、受講修了者には厚生労働省健康局長名による修了証書が交付されます。
 日時：平成30年11月11日（日）9：00～17：00
 会場：市立長浜病院 講堂
 問合せ先：がん対策推進室 電話 0749-68-2300（代表）
 ※今年度から緩和ケア研修会の開催指針が改正され、集合研修の受講にはe-learningの修了が必要です。



◆開放型病床運営委員会の開催について

次のとおり、開放型病床運営委員会を開催します。その他議題があればお願いいたします。

日時：平成30年11月22日（木）17：30～
 会場：市立長浜病院 本館2階 第2会議室
 議題：1. 開放型病床利用状況について
 2. 病診連携運用状況について
 3. その他

編集後記

雨が多めの秋ですがとても過ごしやすい気持ちのいい時間を過ごすことが多くなりました。

何事も穏やかに過ごしたいものです。

（今年の夏の忘れ物は鮎が食せなかったことです。とても心残りです。）



Pink-Bu

ほっといいき



もも

救急告示病院
 日本医療機能評価機構認定病院
 地域がん診療連携拠点病院
 厚生労働省臨床研修指定病院
 周産期協力病院
 地域医療支援病院

市立長浜病院 地域医療連携だより

理念

地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」
 を発展させ、地域完結型の医療を進めます。

平成30年10月1日号 No.166

市立長浜病院ホームページ

<http://www.nagahama-hp.jp/>

市立長浜病院 検索



市立長浜病院患者総合支援センター 地域医療連携室

〒526-8580 長浜市大茂亥町 313 番地

TEL:0749-65-2720 FAX:0749-65-2730

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。10月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

◆「湖北圏域の緩和ケア」

診療局理事兼がん対策推進室管理監 伏木 雅人



すっかり秋めいて、肌寒くなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

ご存じのとおり緩和ケアの概念は、「辛さを和らげる」ことにあり、「医師として医療者として最も基本に捉えるべき原点である」とは、まさに釈迦に説法で誠に恐縮ですが、医療を始めるにあたっては真っ先に辛さを和らげてからでないと、検査を行うも、検査結果を受けて治療方針を立てるのも、病気に対する心配を和らげることも進めることができません。

当院は、平成17年に緩和ケア推進委員会を立ち上げ、同年に厚生労働省から地域がん診療連携拠点病院の指定を受けています。緩和ケアを普及啓発するための「がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会」の湖北地域での開催も本年度で10年が経過しました。

また、湖北医師会のご尽力のおかげで、「湖北緩和ケア放射線治療研究会」を12年前に立ち上げることができ、大勢の皆様のご参加のおかげで5年にわたり継続できました。その後は、現在の「湖北緩和ケア在宅医療研究会」に引き継ぎすでに7年目となります。これらも医師会の皆様のご努力もあって湖北の地にも緩和ケアが普及し、特に在宅看取りにおいては全国でも屈指の高率となっています。

さて、上記の「滋賀県がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（集合研修）」（市立長浜病院会場）を、平成30年11月11日（日）に当院講堂で開催します。

当該研修会は、本年から内容が大きく見直され、新指針のもとで開催されますのでご案内いたします。何よりも大きく変わるのは、座学の講義がe-learningに置き換わったことです。従いまして、事前にe-learningを履修いただく必要はありますが、病院での集合研修はロールプレイとグループワークのみで1日で修了いたします。こうして、ご多忙な先生方の拘束時間を減らせるようになりました。

なお、e-learningのwebサイトは「PEACEプロジェクト」と検索をかけていただき、<http://www.jspm-peace.jp>の左側バナーの「新指針緩和ケア研修会e-learning」からお入りください。

さらにもうひとつ根本的な変更点としましては、従前は「がん診療に携わる医師のための」とうたっていましたが、新指針では「がん等の診療に携わる医師等に対する」と変更されています。いよいよがんへの緩和も対象に広げて積極的に挑んで参ります。

医師会の先生方の日常の診療におかれましては、がんももちろんのことではございますが、非がんの疾患の症状緩和でお悩みの方々も多いこととお察し申し上げます。そのような先生方にも活用いただける内容と方向になっておりますので、多数の方々のご参加を是非お待ち致しております。

※問い合わせ先：がん対策推進室 0749-68-2300（代表）

◆緩和ケア、10月20日(疼痛ゼロ)を目指した取り組み

地域と病院の緩和ケアをつなぐ、がん性疼痛看護認定看護師の役割

がん性疼痛看護認定看護師 河野 智一

トータルケアの語呂にちなんで、がん性疼痛（トータル）看護の認定看護師2名から「地域と病院の緩和ケアをつなぐ、がん性疼痛看護認定看護師の役割」をご紹介します。

がん性疼痛看護認定看護師は、がん患者の痛みや身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな状態を総合的に判断し、個別的なケアを実施します。その際、疼痛やその他苦痛緩和の薬物療法を評価し適切に使用できるようにマネジメントを行います。また、治療や看取りの意向などの決定の際に生じるジレンマに対して、倫理的視点をを用いた調整を行います。そして、多職種と共同してこれらの役割を發揮しチーム医療に貢献します。

当院では毎週火曜日に、多職種で構成された緩和ケアチームによる病棟回診やカンファレンスが行われています。私は、訪問看護ステーションの看護師として、緩和ケアチームに所属しています。外来通院中のがん患者さんや訪問看護利用者さん・ご家族がお困りのつらさを評価して、診療所の先生方や地域の訪問看護師、ケアマネージャー、院内に所属する専門スタッフと相談し、地域の人々によりよい緩和ケアを「つなげる」役割があります。最近では、がん患者さんだけでなく、非がん患者さんへの在宅緩和ケアも調整し、すべての方の在宅看取りの希望に添えるよう対応しています。

また、病棟所属のがん性疼痛看護認定看護師の大町と、在宅療養から外来通院、入院それぞれの疼痛経過について検討する「がん性疼痛看護カンファレンス」を行い、どこで過ごされていても緩和ケアを「つなげる」ことを目標に活動しています。

地域がん診療連携拠点病院の訪問看護師・緩和ケアチーム看護師として、在宅緩和ケアの充実に少しでも貢献できるように、施設を超えてチーム医療が提供できるように、これからも努力していきます。



継続した疼痛緩和を目指して(看護師の役割)

がん性疼痛看護認定看護師 大町 衣里子

当院には、がん性疼痛看護認定看護師が2名在籍しています。私たちは毎週金曜日に、それぞれが関わっている患者さんの疼痛コントロール状況について、カンファレンスで共有し、病院・地域でのがん性疼痛看護実践について検討しています。

私は病棟所属の看護師として、疼痛コントロールが必要な入院中の患者さんご家族を中心に、看護実践介入を行っています。また、緩和ケアチームにも所属しており、毎週金曜日には緩和ケア認定看護師と情報を共有し、院内各部署へ看護回診を実施しています。

日々の看護実践や看護回診の際、「痛み」のある患者さんが「日常生活でどのようなことに困っておられるか」ということを常に考え、苦痛が緩和する方法について病棟スタッフと共に考えています。

「痛み」は身体的なつらさだけでなく、生きる意欲の低下や日常生活の困難感につながるなど、様々な影響があります。「痛み」で自宅での生活が困難となられた患者さんの「痛み」をできるだけ早く緩和できるように評価を行い、主治医や薬剤師、がんに関連する専門・認定看護師と鎮痛剤に関する薬物療法や鎮痛を目的とした放射線療法、化学療法の必要性を検討しています。また、治療中や終末期におけるがんリハビリテーションの必要性を検討し、生活機能の低下予防を図り退院後の生活を見据えた関わりを心掛けています。

さらに、医療用麻薬による除痛は、終末期だけでなく、治療期にある患者さんも対象であり、長く痛み止めとつきあう方が多くなっています。療養生活における「困難」や「痛みの伝え方」について患者さんご家族と一緒に考え、患者さんと医療者をつなぐ「痛みとのつきあいサポーター」が私の役割となるところです。

河野・大町ともに訪問看護を利用されているがん患者さんご家族の疼痛緩和に関して、看護師の相談対応を受けています。さらに、訪問看護師との同行訪問も行っていますので、ご活用いただけますと幸いです。

◆第298回 開放型病床生涯教育研修会を開催しました

平成30年9月6日に行われました生涯教育研修会におきまして、大津赤十字病院より、日下部桐子先生より「脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が考える排泄ケア」の講演がありました。日下部先生は、排尿ケアを中心としたケアを行うオムツフィッター2級、排便を中心としたケアを行うPOOマスター講義終了などの経歴があり、座学に加え、オムツの種類や当て方について実演を含めた講義をしていただきました。

講義内容では、排泄ケア方法について教えていただきました。中でも印象に残っているのは、便の評価「ブリストルスケール」の活用や、排便日誌の活用、下剤の使用法の事例でした。また、業者の方からオムツの当て方やパットの種類と選定など実演を通して教えていただきました。

講義と実演を通して、明日から実践に利用できる内容を理解することができました。また、排泄ケアとオムツの奥深さとおもしろさを知る事ができ、とても充実した研修でした。



◆10月10日は「目の愛護デー」

10月10日は「目の愛護デー」です。ご存じの方も多いと思いますが、10.10を横の形にすると人の顔の目と眉に見えるからです。目の愛護デー週間として各自治体の医師会が主催となり、各地で目の健康に関わる活動やイベントが行われていますが、当院でも3年前より視能訓練士主催の「目の愛護デー」パネル展示を実施しています。今年も10月1日(月)～12日(金)の期間中、1階総合受付横に展示を予定しており、白内障や糖尿病網膜症、緑内障などの眼疾患の解説のほか、小児の斜視や弱視、そしてロービジョンについての情報提供を行います。



また、黄斑変性症の症状である線の歪みや暗点の検査ができるアムスラーチャートをご自宅でのチェック用として、ご自由にお持ち帰りしていただけるようにご用意しています。この機会に目の健康についての意識を高めいただき、眼疾患の早期発見に繋がればと思います。また、9月には院内職員対象のロービジョン展示体験会を開催しました。視覚に配慮した院内環境整備や安全な誘導方法についてロービジョン体験を通して紹介するなど、院内視覚バリアフリーの啓発活動をしています。患者さんの療養環境の整備がさらに進むよう、今後も定期的な開催を行っていきます。

◆お知らせ

■電子カルテシステム等の病院情報システムの更新を行います

現在、当院では病院情報システムの更新作業を進めており、平成31年1月より新しいシステムが稼働します。これに合わせて、外来診察の受付や各診療科での患者様の呼び込み方法などが変更となります。また、開業医の先生方にご利用いただいております「びわ湖あさがおネット」の当院からの情報提供患者様の画面構成が変更となります。次回以降の地域連携日よりホームページなどを通じて変更になる事項等を順次お知らせいたしますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

■地域医療連携室からのお知らせ

- ◇ 10月16日(火)は、システム変更に向けての事前リハーサルを実施します。それに伴い、17時以降のFAXが使用できなくなりますのでご了承ください。翌朝には復旧いたします。
- ◇ 10月25日(木)は、システム調整のため、地域連携窓口業務を17時15分にて終了させていただきます。FAXによる対応は翌朝になります。救急受け入れに関するご連絡は病院代表から救急へ連絡いただけますようお願い申し上げます。